

授業科目名	保育内容「表現」指導法	担当教員名	河野 佑美 / 白波瀬 達也
科目区分	教職・保育に関する科目	施行規則に定める 科目区分 等	領域及び保育内容の指導法に関する科目-保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む） 表現 / 保育内容演習/保育の内容・方法に関する科目
必修・選択/単位数	必修 / 2単位（30時間）	授業方法/担当形態	演習 / オムニバス
開講学年/学期	2年 前期（1-2期） / 年間開講数 1講座	特記事項	※「保育内容演習」の指導内容を含む
授業の概要 及び 全体目標	乳幼児の実態に応じた保育内容の展開するために、発達特性を踏まえた上での指導のあり方を探していきます。表現活動が子どもたちにとって何をもたらすものなのかを考え、保育内容「表現」を展開するための計画、指導、実践する力を身に付けます。（アクティブラーニングとしてグループワークを取り入れる） ※ICTの活用、協働学習を含む。		
到達目標	(1)幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「表現」のねらい及び内容を理解する。 ①幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、各領域のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。 ②領域「表現」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。 ③幼稚園教育における評価の考え方を理解している。 ④領域「表現」において幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解している。 (2)保育内容の指導方法と保育の構想：幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。 ①幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。 ②領域「表現」の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用方法を理解し、保育の構想に活用することができる。 ③指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。 ④模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。 ⑤領域「表現」の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。		
テキスト	<河野>第2版「アクティブラーニングを取り入れた子どもの発達と音楽表現－幼稚園教諭・保育士養成課程」櫻井琴音著（学文社）		
参考書・ 参考資料等	「平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本」（株式会社チャイルド本社） <河野> 自主プリント <白波瀬>「幼児造形の基礎 乳幼児の造形表現と造形教材」樋口一成編著（明文書林）		
成績評価の方法	<河野> 受講意欲・態度10%、提出物30%、到達度・理解度 <白波瀬> ワークシートにまとめ、学びの過程を評価（60%）、自ら課題を発見し積極的に取り組む授業参加度（40%）		
授業外（事前・事後）学習の方法、オフィスアワー等	<河野> 事前学習については授業で指示する。事後学習については毎回コメントシートを提出。 オフィスアワー：授業終了後、質問事項を質問シートに記載し、学務室経由で提出してください。 <白波瀬> 事前学習はシラバスに記載している内容を確認し準備しておく。事後学習は授業内容をふりかえりワークシートにまとめおく。授業に関する質問は授業前と授業後に受け付ける。		
授業計画	授業の内容		到達目標番号
第1回	領域「表現」のねらい及び内容について / 年齢別の幼児の音楽表現の特徴と保育の評価について（担当：河野）		(1)-①,(1)-②,(1)-③
第2回	海外の幼児教育法 カール・オルフの音楽メソッドを中心に① 代表的な海外の幼児教育方法を知り、理念、具体的な教育法を体験し理解する（即興リズム）（担当：河野）		(2)-①
第3回	海外の幼児教育法 カール・オルフの音楽メソッドを中心に② 具体的な教育法を体験し、理解する（年齢別 即興楽器アンサンブル）（担当：河野）		(2)-①
第4回	楽器の奏法について① 幼児の興味や理解の促進に関する情報機器及び教材の活用方法、指導案の作成方法について－計画・立案－（担当：河野）		(2)-①,(2)-②,(2)-③
第5回	楽器の奏法について② 幼児の興味や理解を促進する具体的な保育の現場を想定した指導 ー模擬保育・情報機器を用いた振り返り（保育の評価と改善）ー（担当：河野）		(1)-③,(2)-④
第6回	楽器を用いた音楽活動について① 童謡を用いたリズム遊びや楽器遊び等の保育構想への活用、コード伴奏法(1)基本のスリーコードと進行（担当：河野）		(2)-①
第7回	楽器を用いた音楽活動について② 具体的な保育の現場を想定した構成と援助 ー計画・立案ー、コード伴奏法(2)リズム遊びに応じた伴奏方法の理解（担当：河野）		(2)-①,(2)-②,(2)-③
第8回	楽器を用いた音楽活動について③ 具体的な保育の現場を想定した指導 ー模擬保育／情報機器を用いた振り返り（保育の評価と改善）ー、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と小学校教科とのつながりを考え理解する（担当：河野）		(1)-④,(2)-④,(2)-⑤
第9回	描画材を用いた活動①－絵の具 絵の具を用いた乳幼児の描画活動について理解する。（担当：白波瀬）		(1)-②,(1)-④
第10回	描画材を用いた活動②－マーカー マーカーを用いた乳幼児の描画活動について理解する。（担当：白波瀬）		1-(1)-②,1-(1)-④
第11回	造形活動の指導について 乳幼児の造形表現活動を事例をも基に保育案を作成する。（担当：白波瀬）		1-(1)-④,1-(2)-①,1-(2)-③
第12回	感触あそびの実践と検討 感触を味わい幼児の造形活動を考える（担当：白波瀬）		1-(2)-②
第13回	素材の研究と実践 色について 色水の変化を味わい幼児の造形活動を考える		1-(1)-①

授業計画	授業の内容	到達目標番号
第14回	模擬保育の実践① 3、4 歳児の造形に関する模擬保育案を作成し実践する	1-(1)-②,1-(2)-③,1-(2)-④
第15回	模擬保育の実践② 4、5 歳児の造形に関する模擬保育案を作成し実践する。	1-(1)-②,1-(2)-③,1-(2)-④
第16回	ふりかえり造形に関する模擬保育 実践後のふりかえり、ファイルを完成させる。	1-(2)-①,1-(2)-⑤